

繰り返し音声提示の聞き取りに対する効果：機能語と内容語の視点から

著者	池田 真生子, 竹内 理
雑誌名	LET関西支部研究集録
巻	8
ページ	31-40
発行年	2000
URL	http://hdl.handle.net/10112/967

LET 関西支部研究集録

8

21 世紀の外国語教育とメディア

繰り返し音声提示の聞き取りに対する効果
—機能語と内容語の視点から—

池田 真生子 摂南大学
竹内 理 関西大学

2000

外国語教育メディア学会関西支部

繰り返し音声提示の聞き取りに対する効果 —機能語と内容語の視点から—

池田 真生子 摂南大学
竹内 理 関西大学

Abstract

The hypotheses for this empirical study were (a) in one-time presentations, content words are easier than function words to listen to regardless of sentence length and grammatical complexity, and (b) repeated presentations are effective for listening to function words as well as content words no matter the sentence length and grammatical complexity. The subjects were 100 Japanese university EFL students. They were given a 40-sentence dictation task. Each sentence was presented five times. The results show that (a) in one-time presentations, function words could be more easily listened to than content words depending on the type of sentence, and (b) this tendency seems to have been more prevalent for the shortest (i.e., five-word) easier sentences. Also, the findings indicate that repeated presentations (c) are effective for listening to both function words and content words and (d) might help the listening of function words over content words in shorter and more difficult sentences. Possible explanations and the research implications of our findings are discussed.

1. はじめに

外国語教育 指導の際に音声を繰り返し提示する方法は、テープレコーダの時代から頻繁に利用されている。また、昨今のデジタル化技術の進歩に伴い、繰り返し提示を効率的におこなえる環境は急速に進歩している。しかしながら、このような状況にも関わらず、繰り返し提示の有効性に関する実証的研究はいまだ少ない。¹ これは、英語母語話者が主に授業を担当する ESL 環境において、機器を利用した繰り返し提示のような研究テーマは、副次的なものであり、あまり関心と呼ばなかったことが一因であると推察される。しかし、日本のような EFL 環境で、英語の非母語話者が音声教材を利用して授業を担当する場合には、このテーマは極めて重要であり、多様な視点から積極的に研究されるべきものと言えよう。そこで、今回の論文では、繰り返しの効果のなかでも、機能語の聞き取りに対する影響に的を絞り、実証的にその有効性について検証していくこととした。

2. 仮説

日本語、フランス語、スペイン語のような、*stree-timed language* を母語としない学習者が、*stree-timed language* である英語を学ぶ場合、比較的弱く発音される機能語の聞き取りに苦労すると言われている (Eastman, 1993; Pollack & Pickett, 1964)。² この主張は日本人英語学習者を対象としたリスニング誤答分析の結果からも裏付けられている (例えば、池、木村, 1993; 竹蓋, 1982, 1984)。しかしながら、これらは音声を 1 回だけ提示した場合の結果であり、繰り返し提示した場合、聞き取り結果がどのように推移するかは、筆者の知る限り、未だ調べられていない。そこで、本

論文では以下のような仮説を立て、音声の繰り返し提示が機能語の聞き取りにどのような影響を与えるのかを検証していくことにした。

仮説1. 1回だけの音声提示では、提示文の長さや難易度と関係なく、機能語よりも内容語に正解が多い。

仮説2. 繰り返し提示をおこなうことにより、提示文の長さや難易度と関係なく、機能語の聞き取りは（内容語と同様に）改善していく。

3. 被験者

被験者は、外国語として英語を学習する日本人大学生100名（男子79名、女子21名）で、海外長期滞在経験者は含まれていなかった。被験者の外国語能力の違いにより、結果に差が見られるかを調べるため、被験者は各50名の上位群、下位群に分けられた。両群の間には、50問のクローズテストにより、英語力に差があることが確認されている。（ $t=9.94, df=73.75, p=.00$ ）

4. 方法

4.1 タスク

タスクとしては、40個の英文をディクテーション課題として与えた。文の長さおよび難易度の影響を調べるために、ディクテーション課題には表1に示したような8種類の異なる文を5個ずつ含めた。（実際の文章は、Appendix 参照）

表1. 聞き取り文の種類

文の長さ	難易度	
	低い	高い
5語	5文	5文
10語	5文	5文
15語	5文	5文
20語	5文	5文

文の難易度の違いは、(a) Readability の違い、(b) 1文の分節数総数に占める従属節の割合、の2方法で確認した。(a) では、5語文から20語文までの20文を1文章のようにして扱い、難易度の低い文グループと難易度の高い文グループ毎にFlesh Reading Ease Scale を使用して値を算出した。その結果、難易度の低い文グループでは値が82、難易度の高い文グループでは75となった（値が高いほど読みやすい）。(b) では、難易度の低い文グループの値が0.12、難易度の高い文グループの値が0.32となり、 t 検定の結果、両グループ間に差のあることが確認された（ $t=2.34, df=38, p<.05$ ）。これらの文は、英語母語話者2名（米国人男女1名ずつ）が自然な速さで読み上げたものを録音、編集した上でディクテーション課題とした。

4.2 手順

40文のディクテーション課題は1文ずつ、表2で示す順序に従い提示した。その際、提示順序が結果に影響を与えないように配慮した。つまり、上、下位群の被験者をそれぞれグループ1、2とグループ3、4の2つずつに分け、提示順序の影響を相殺した。被験者は、各文を5回ずつ聞き、1回毎に聞き取った部分を解答用紙に記入した。なお、音声提示後には記入のために十分な時間が毎回与えられていた。また、提示回別の聞き取り状況を把握するために、提示回別に異なる色のペンを利用して解答するよう、被験者には指示が出されていた（例：1回目は黒、2回目は青）。

表2. ディクテーション課題の提示方法

提示の順序			
グループ1、3		グループ2、4	
難易度の低い文		難易度の高い文	
(1) 5語文	:	(1) 20語文	:
(2) 10 "	(13) 20語文	(2) 15 "	(13) 5語文
(3) 15 "	(14) 15 "	(3) 10 "	(14) 10 "
(4) 20 "	(15) 10 "	(4) 5 "	(15) 15 "
(5) 20 "	(16) 5 "	(5) 5 "	(16) 20 "
(6) 15 "	(17) 5 "	(6) 10 "	(17) 20 "
(7) 10 "	(18) 10 "	(7) 15 "	(18) 15 "
(8) 5 "	(19) 15 "	(8) 20 "	(19) 10 "
:	(20) 20 "	:	(20) 5 "
難易度の高い文		難易度の低い文	
(21) ~ (40): 難易度の低い文と同順序		(21) ~ (40): 難易度の高い文と同順序	

* () 内は、問題番号

採点は、筆者らがもうけた基準に沿っておこなわれた。また、その一部がランダムに取り出されて別の採点者により採点されたが、一致度は高く、.97となった。採点基準には、綴りの誤りは減点しないなど、被験者のリスニング力のみが得点に反映されるよう配慮した。分析には、仮説1に関しては、機能語、内容語毎に得点が満点に占める割合を算出し、パーセントで比較する方法を採用した。仮説2に関しては、ANOVA with Repeated Measures (Post-hoc テストとしてはLSD) を利用して、繰り返し提示による点数の伸びを検定し、その結果を機能語と内容語で比較分析した。

5. 結果と解釈

5.1 仮説1の結果と解釈

まず、1回の音声提示による、機能語と内容語の聞き取り状況を比較すると、表3、図1のような結果となった。

表3および図1より、機能語よりも内容語において正解率が高い傾向が読みとれる。この傾向は、特に文章の難易度が高く、短い文（5語、10語文）において顕著に見られ、なおかつ上位群、下位群に共通して認められる。内容語よりも機能語において正解率が高いという結果も見られるが、これは設定された16条件のうち5条件（全体の31.3%）であった（表4）。また、5語文においては、上、下位群共に、文

の難易度が低くなると機能語の正解率が急激に上がっている。5語より長い文においては、難易度が変化してもこのように機能語、内容語どちらの正解率にも大きな変動は見られなかった。

表3. 音声提示が1回の場合の聞き取り状況

難易度	語の種類	上位群				下位群			
		低い		高い		低い		高い	
		機能語	内容語	機能語	内容語	機能語	内容語	機能語	内容語
5 語文	M(%)	63.00	60.71	22.75	55.46	52.88	40.35	18.83	38.08
	SD	19.31	15.31	12.69	14.46	3.35	5.06	3.56	4.27
10 語文	M(%)	22.26	43.48	16.13	40.37	14.89	25.52	13.03	22.37
	SD	12.61	14.20	13.07	17.15	5.18	4.80	4.28	4.20
15 語文	M(%)	24.36	27.35	19.03	17.64	35.46	32.84	24.46	23.54
	SD	8.05	12.06	8.15	7.23	4.33	5.00	5.30	4.47
20 語文	M(%)	13.36	24.32	12.61	20.61	18.00	27.53	12.71	30.16
	SD	7.02	7.22	4.23	4.78	5.76	5.33	4.27	5.08

(n=100)

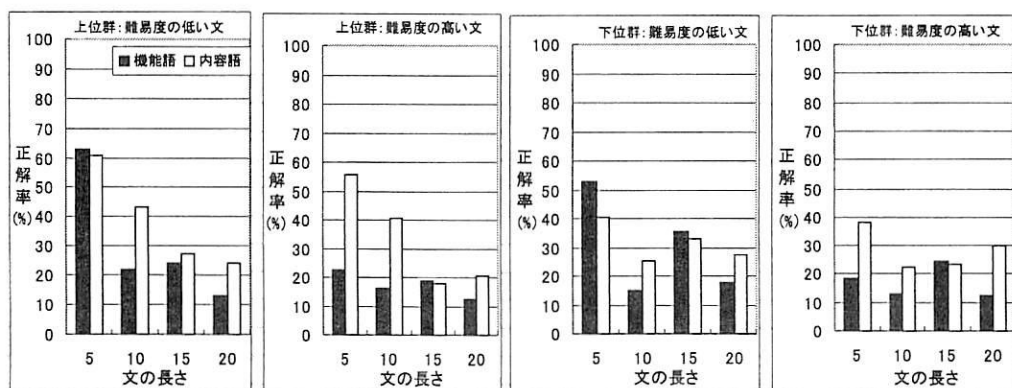


図1. 音声提示が1回の場合の聞き取り状況

表4. 機能語の聞き取りの方が良かった条件

被験者	難易度	文の長さ
上位群	低い	5 語文
	高い	15 語文
下位群	低い	5 語文、15 語文
	高い	15 語文

以上の結果より、1回限りの音声提示では、機能語の正解率が低く、内容語の正解率が高い傾向があるが、提示される文の条件によっては内容語よりも機能語の正解率が高い場合もあることがわかった。この結果は、特に短い文（5語文）について該当し、難易度の違いにより機能語の正解率が大きく変動する現象が表れた。

このような現象が5語文においてのみ見られた1つの理由としては、文の長さにより作り出される意味の余剰性が5語文にはなく、学習者の持つ文法力による推測が、機能語の聞き取りに大きく関与したことが考えられる。つまり、難易度の低い場合には、文の構造が単純なため、学習者の持つ文法力による推測が働き、文に余剰性がなくても、聞き取れた単語から既知の構文を組み立てることができ、機能語の聞き取りを容易にしたと推測できる。一方、難易度が高い場合には、文の構造が複雑なため、文法力による推測があまり進まず、機能語の聞き取りが悪かったのであろう。

5.2 仮説2の結果と解釈

次に、音声を2回以上繰り返し提示した場合の得点の変化をまとめ、仮説2の検証をおこなった。結果は表5、6、7のようになった。また、表8は、表7において $p < .01$ の棄却値で有意な得点の上昇を示した最終提示回を、機能語と内容語と比較したものである。ほとんどの場合（全条件の62.5%）で、両者の間には差がなく4回目あるいは5回目となった。機能語の方が回数が多くなった（提示回数の、得点への有意な影響が後まで出た）ケースは、上位群、下位群共に、2つであった（上位群は5語文と10語文、下位群は5語文と20語文）。この合計4つのケースは、いずれも提示文の難易度が高い場合にのみ見られた。逆に、内容語の方が回数が多くなったのは、上、下位群共に難易度の低い5語文のみであった。

表5. 機能語、内容語の聞き取り得点の推移：上位群

語の種類	機能語						内容語						
	提示回数	1	2	3	4	5	p	1	2	3	4	5	p
難易度の低い文	5語文 (Score Range: 0-16)						(Score Range: 0-34)						
	M	10.08	11.74	12.36	12.56	12.72	.00	20.64	24.04	25.80	26.76	27.36	.00
	SD	3.09	2.93	2.46	2.30	2.20		5.21	5.46	5.27	5.02	4.75	
	10語文 (Score Range: 0-54)						(Score Range: 0-46)						
	M	12.02	20.44	24.98	28.04	29.06	.00	20.00	28.42	31.70	33.34	34.12	.00
	SD	6.81	8.57	8.75	8.63	8.54		6.53	6.71	6.04	5.46	5.52	
	15語文 (Score Range: 0-88)						(Score Range: 0-62)						
	M	21.44	30.46	36.68	42.18	44.98	.00	16.96	26.00	31.30	34.20	36.18	.00
SD	7.08	10.48	11.56	11.96	12.54		7.48	8.87	9.71	10.44	10.39		
難易度の高い文	20語文 (Score Range: 0-106)						(Score Range: 0-94)						
	M	14.16	23.50	30.68	35.53	39.43	.00	22.86	35.84	44.13	50.62	24.70	.00
	SD	7.44	8.98	10.18	11.41	11.28		6.79	9.20	10.61	11.46	12.18	
	5語文 (Score Range: 0-24)						(Score Range: 0-26)						
	M	5.46	9.76	11.62	12.74	13.00	.00	14.42	17.96	18.70	19.24	19.40	.00
	SD	3.05	3.58	3.33	2.71	2.65		3.76	3.53	3.32	3.33	3.10	
	10語文 (Score Range: 0-62)						(Score Range: 0-38)						
	M	10.00	16.18	20.32	23.20	24.82	.00	15.34	20.46	22.64	23.54	24.12	.00
SD	6.12	7.93	8.87	9.44	9.37		4.43	5.81	6.05	6.10	6.20		
15語文 (Score Range: 0-78)						(Score Range: 0-72)							
M	14.84	22.14	26.72	29.44	32.44	.00	12.70	20.78	25.28	28.74	30.26	.00	
SD	6.35	8.36	9.22	10.32	10.47		5.20	6.66	7.55	7.80	7.97		
20語文 (Score Range: 0-102)						(Score Range: 0-98)							
M	12.86	19.14	25.54	28.98	32.26	.00	20.20	30.26	35.72	39.06	41.34	.00	
SD	4.31	6.83	8.56	9.94	10.77		4.69	6.70	7.78	8.19	8.35		

(n=50)

表6. 機能語、内容語の聞き取り得点の推移：下位群

語の種類	機能語						内容語						
	提示回数	1	2	3	4	5	p	1	2	3	4	5	p
難易度の低い文	5 語文 (Score Range: 0-16)						(Score Range: 0-34)						
	M	8.46	10.66	11.32	11.66	11.56	.00	13.72	17.96	19.78	20.88	21.70	.00
	SD	3.35	3.34	2.97	2.90	2.90		5.06	5.20	5.52	5.36	4.74	
	10 語文 (Score Range: 0-54)						(Score Range: 0-46)						
	M	8.04	14.06	18.74	21.18	23.12	.00	11.74	18.72	22.92	24.82	26.22	.00
	SD	5.18	6.31	7.32	7.82	8.08		4.80	5.97	6.57	6.70	6.70	
	15 語文 (Score Range: 0-88)						(Score Range: 0-62)						
	M	15.60	22.56	26.32	29.54	32.14	.00	10.18	17.62	22.34	24.62	26.26	.00
SD	4.34	6.00	7.21	8.35	9.37		5.00	7.13	8.20	8.66	8.74		
難易度の高い文	20 語文 (Score Range: 0-106)						(Score Range: 0-94)						
	M	9.54	17.06	22.44	26.76	29.94	.00	12.94	21.72	27.54	31.70	34.56	.00
	SD	5.76	8.29	9.56	11.18	12.10		5.33	7.42	8.43	10.12	10.24	
	5 語文 (Score Range: 0-24)						(Score Range: 0-26)						
	M	4.52	9.10	10.58	11.74	12.30	.00	9.90	14.24	16.14	16.64	16.96	.00
	SD	3.56	4.34	4.08	4.09	4.01		4.27	4.50	4.09	4.12	3.83	
	10 語文 (Score Range: 0-62)						(Score Range: 0-38)						
	M	8.08	12.64	16.02	18.56	20.34	.00	8.50	13.78	15.82	16.86	17.88	.00
SD	4.28	5.99	7.06	7.92	8.29		4.20	4.65	4.68	5.03	4.96		
難易度の高い文	15 語文 (Score Range: 0-78)						(Score Range: 0-72)						
	M	9.54	14.76	17.26	19.56	21.98	.00	8.24	13.18	16.28	19.16	21.02	.00
	SD	5.30	5.43	5.69	6.15	6.84		4.47	6.67	7.63	8.02	8.09	
	20 語文 (Score Range: 0-102)						(Score Range: 0-98)						
M	6.48	10.92	14.82	18.72	21.82	.00	14.78	22.20	26.28	28.28	29.64	.00	
SD	4.27	5.47	6.78	7.69	9.45		5.08	7.15	8.68	8.94	8.77		

(n=50)

この結果より、音声の繰り返し提示は、(a) 機能語と内容語の聞き取りに同じように効果があること、(b) 文の難易度が上がれば、短い文の機能語の聞き取りに、より効果が出る傾向があることがわかる。(b) のような傾向が見られたのは、機能語の1回目の得点が短い文において元々低く、音声を繰り返し提示することにより点数が上昇する余地が、内容語よりもあったためと思われる。

なお、難易度の低い5語文において、繰り返し提示の効果は機能語の聞き取りにあまり認められなかったが、これは、1回限りの提示の場合と同様、文の余剰性が関係しているのかもしれない。つまり、機能語の聞き取りには、ある程度構文の分析が必要とされるが、5語文のような短い文においては分析を助ける余剰性があまりないため、それ以上の機能語の聞き取りが進まなかったものと考えられる。一方、内容語は、構文分析が伴わなくても比較的単独で聞き取りやすく、そのため、余剰性がなくても繰り返し提示の効果が認められたのであろう。

表7. LSD検定の結果

語の種類		機能語				内容語			
		1vs.2	2vs.3	3vs.4	4vs.5	1vs.2	2vs.3	3vs.4	4vs.5
上位群	5 語文	**	*	n.s.	n.s.	**	**	**	*
	難易度の 10 語文	**	**	**	*	**	**	**	n.s.
	低い文 15 語文	**	**	**	**	**	**	**	**
	20 語文	**	**	**	**	**	**	**	**
	5 語文	**	**	**	n.s.	**	*	n.s.	n.s.
	難易度の 10 語文	**	**	**	**	**	**	*	n.s.
	高い文 15 語文	**	**	**	**	**	**	**	**
	20 語文	**	**	**	**	**	**	**	**
上位群	5 語文	**	*	n.s.	n.s.	**	**	**	*
	難易度の 10 語文	**	**	**	**	**	**	**	**
	低い文 15 語文	**	**	**	**	**	**	**	**
	20 語文	**	**	**	**	**	**	**	**
	5 語文	**	*	**	n.s.	**	**	n.s.	n.s.
	難易度の 10 語文	**	**	**	**	**	**	**	**
	高い文 15 語文	**	**	**	**	**	**	**	**
	20 語文	**	**	**	**	**	**	**	*

** $p < .01$ * $p < .05$

表8. 有意な点数の上昇を示した最終提示回 (最大5回)

文の難易度		低い		高い	
		機能語	内容語	機能語	内容語
上位群	5 語文	2 回目	4 回目	4 回目	2 回目
	10 語文	4 回目	4 回目	5 回目	3 回目
	15 語文	5 回目	5 回目	5 回目	5 回目
	20 語文	5 回目	5 回目	5 回目	5 回目
下位群	5 語文	2 回目	4 回目	4 回目	3 回目
	10 語文	5 回目	5 回目	5 回目	5 回目
	15 語文	5 回目	5 回目	5 回目	5 回目
	20 語文	5 回目	5 回目	5 回目	4 回目

6. おわりに

今回の研究では、

1. 1回限りの音声提示の場合、内容語の正解率が高い傾向があるが、提示する文の条件(難易度、長さ)によっては機能語の正解率が内容語のそれを上回る場合もあり、
2. この現象は、特に5語文の難易度が変化した場合、機能語の正解率の変動に顕著に認められる

との結果を得た。これら結果は、繰り返し提示の研究では、提示回数回数だけではなく、提示文の条件（難易度、長さ）という変数も考慮に入れる必要があることを示した Ikeda and Takeuchi (in press) の結果を追認するものであり、今後の同種の研究では特に考慮すべきものと言えよう。

また、今回の研究からは、繰り返しの音声提示は

3. 機能語にも内容語にも等しく効果を表すが、
4. 短い文で難易度が高い場合は、機能語の方により効果が出る傾向が認められる

との結果を得た。上の4.の結果に関しては、傾向でありより精緻な実験のもとに追証していく必要がある。また、本実験は提示回数が5回までの条件で行われており、更に提示回数を増やした場合、異なる結果が得られることも考えられる。このため、提示回数を増やした研究も今後行っていく必要があろう。

註

1. 筆者の知るかぎりでは、Ikeda and Takeuchi (in press)、河野 (1985)、Suenobu, Kanzaki, Yamane, and Young (1986)、Suenobu, Kanzaki, and Yamane (1989)、高橋、椎名、竹蓋 (1988) などがある。このうち、Suenobu, et al. (1989) は Suenobu, et al. (1986) の再収録版である。
2. 機能語 (Function Words) は文法的関係などを規定する語で、独立した意味はほとんど持たない。主に、接続詞、前置詞、冠詞が相当する。機能語に対峙するのは、内容語 (Content Words) と呼ばれる。内容語は、物体、性質、動作などを示す語で、単独で用いられても意味を持つ。主として名詞、動詞、形容詞、副詞が含まれる (Richards, Platt, and Weber, 1985)。

参考文献

- Eastman, J. K. (1993). C-words and F-words: The importance of distinguishing content and function in teaching second language listening comprehension. *System*, 21(4), 495-502.
- 池稔、木村和夫 (1993). 「音と単語の聞き誤り」 小池生夫 (編) 『英語のヒアリングとその指導』 東京: 大修館書店.
- Ikeda, M. & Takeuchi, O. (in press). Repeated presentations of material: Is it effective for EFL students' listening? *The Proceedings of the Fourth International Conference of Foreign Language Education and Technology (FLEAT IV)*.
- 河野守夫 (1985). 「Listeningを左右する要因: 実証研究」 河野守夫、沢村文雄 (編) 『Listening & Speaking: 新しい考え方』 京都: 山口書店.
- Pollack, I. & Pickett, J. M. (1964). Intelligibility of excerpts from fluent speech: Auditory vs. structural context. *Journal of Verbal Learning and Verbal Behavior*, 3, 79-84.
- Richards, J., Platt, J., & Weber, H. (Eds.) (1985). *Longman Dictionary of Applied Linguistics*. Harlow: Longman.

Suenobu, M., Kanzaki, K., Yamane, S., & Young, R. (1986). Listening comprehension and the process of information acquisition by non-native speakers of English. *International Review of Applied Linguistics*, 24(3), 239-248.

Suenobu, M., Yamane, S., & Kanzaki, K. (1989). *From Errors to Intelligibility: A Study of the Japanese Learners' Perception and Production of English*. Kobe: Kobe University of Commerce.

高橋秀夫、椎名紀久子、竹蓋幸生 (1988). 「ヒアリングの理論と指導に関する基礎的研究」 *Language Laboratory* 25, 3-13.

竹蓋幸生 (1982). 『日本人英語の科学』 東京: 研究社.

竹蓋幸生 (1984). 『ヒアリングの行動科学』 東京: 研究社.

Appendix: 聞き取りタスクに含まれた文章

難易度	低い	高い
5 語文	<ul style="list-style-type: none"> - Germans usually recycle food waste. - My sister became a teacher. - That cake tastes very nice. - Nobody was for the plan. - Here goes the last train. 	<ul style="list-style-type: none"> - She got a new car. - I feel sorry for her. - Reaching Tokyo, they changed trains. - Sad indeed was the story. - I, an American, admire Lincoln.
10 語文	<ul style="list-style-type: none"> - Of course, the magazine includes ads for doctors and nurses. - Jobs are a major topic for the magazine and newsletter. - Please tell me how to go to the post office. - You must be careful not to repeat the same mistake. - I'd like to see one of my friends this weekend. 	<ul style="list-style-type: none"> - Afraid of being caught by the police, he ran away. - It being cool, there were few people on the bench. - Students who study hard will learn a lot of English. - Either I dropped my key somewhere or it was stolen. - No other man has impressed me so deeply as Clinton.
15 語文	<ul style="list-style-type: none"> - You have to bring your own shopping bags with you, or pay for new ones. - He waited and waited for the ship from the mother country, but it didn't arrive. - We looked up at the stars twinkling in the clear sky and talked a lot. - She liked to sit on a bench to read newspapers or a book of poems. - I cannot see why women pay so much attention to their clothes, shoes and bags. 	<ul style="list-style-type: none"> - The thought occurred to me that I might never be able to see her again. - If you had got up earlier, you would have had plenty of time for your breakfast. - The sudden increase of motor cars is causing a large number of traffic accidents everyday. - The children brought Mike, who turned 40 the same day, a birthday cake and cards. - It is not surprising that students who pass these exams cannot communicate with foreigners.
20 語文	<ul style="list-style-type: none"> - Many families visit hot spring resorts during holidays, but many younger people prefer to go camping, swimming, skiing and skating. - Children in any country learn to speak their native language between the ages of two and five without formal training. - A train was just leaving the platform as she got in and she had to wait for the next one. - Later at the theater he knew that the manager did not think much of his comedy on the opening night. - One of the tourists said that Mt. Fuji was the symbol of the pride and joy of the Japanese people. 	<ul style="list-style-type: none"> - This orchestra does not allow female members, and has not allowed them since it was founded about 50 years ago. - It's much easier for kids to get into a good university if they have gone to a good high school. - When Japanese people move to the United States, their rates of heart disease and cancer increase since their diet changes. - They say it's hard to be sure that the card information will pass only between the customer and the seller. - With over 60 credit points in a year's period, you can use the credits to get volunteers to help you.